

平成30年 3月31 日

（あて先）熊本市長

団体名 ことう文庫の将来を考える会
代表者 職名 会長 氏名 吉朝 潤子

印

熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

平成29年4月1日付け指令（地活）第1－12号により、熊本市市民公益活動支援助成金の交付決定を受けました事業の実績について、熊本市市民公益活動支援基金実施要綱第20条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

1 助成事業名

ことう文庫を「もっと身近に、みんなの居場所に」する事業

2 助成事業の実施期間

平成29年4月1日～平成30年3月31日

3 助成事業の内容

ことう文庫における子どもたちや多世代にわたる地域住民とのコミュニティづくり事業

4 事業の成果

平成29年度の文庫のべ利用者数は、小学生509名、大人259名、貸し出し冊数は942冊であった。平成28年度ののべ利用実績（小学生375名、大人240名、貸し出し冊数434冊）から大きく伸びました。文庫が地域住民のコミュニティづくりの場として機能し、認知が広がった。

5 助成事業の実施状況

- (1) 事業収支決算書（様式第16号）
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類等
- (3) その他参考となる資料

事業収支決算書

項 目		金 額 (円)	内 訳
収 入	自己資金	27,500	イベント会費
			当該事業による収益
		332	その他の自己資金
			寄附金・協賛金
	市民公益活動支援助成金	100,000	当該事業に対する助成希望額
	その他の補助金・助成金		
	計	127,832	
支 出	助成対象経費	人件費	
		報償費	6,000 講師謝礼
		役務費	4,862 広報費・通信費
		使用料・賃借料	
		事務費	89,445 回覧文書印刷インク代、印刷用紙・消耗品代、 工作・手仕事体験の材料代、文庫内維持管理用 文房具、図書購入 30000 円
		旅費	
		委託費	
		その他	
		小計	100,307
	助成対象外経費	飲食費	2,717 クリスマスリースの会でのお茶・お菓子代
		材料費	24,200 クリスマスリースの会での材料費
		消耗品費	108 クリスマスリースの会での消耗品代
		空調費	500 エアコン代
		小計	27,525
	計	127,832	

事業報告書

実施年度	平成29年度
事業名	ことう文庫を「もっと身近に、みんなの居場所に」する事業
事業期間	平成29年4月1日から平成30年3月31日
事業の目的	目的① 子どもの心に寄り添い、生きる力を育む本に出会う機会を増やす。大人も本に出会いながら住民同士の交流促進につなげる。 目的② ことう文庫にある本を使って、ママ層、高齢者層、若者層を巻き込んでコミュニティづくりを進め、住民が居場所として感じられる存在になる。 目的③ 地域をつなぐ役割としての文庫が住民に認知され、今まであまり地域に関らなかった層の人にも地域の担い手としての意識を持ってもらう。
具体的な事業内容	➤ 4月-7月中旬 ○蔵書整理(4月) 近隣の、閉館される文庫からの寄贈本や新しく購入した本の整理、表示タグの付け替え、未返却本の連絡など。 ○5/13(土)「お見知り会」を子ども会と共催で開催。地区の子供とその親に文庫を紹介。 ○5/20(土)より土曜日10時-12時の通常開館開始。 お話の時間、本の貸し出し、工作、食育、手仕事などの体験メニューも同時にスタート ○6/9(金)リニューアルハッピーワー周年開催。蔵書整理や過去のイベントの参加者に声掛けして開催。参加者11名。 ➤ 夏休み特別開館(7月24日~7月28日、5日間、10時-12時) ○利用者数は延べ人数で子ども76人、大人25人。お話の時間後に工作や手縫い雑巾づくり、ゼリーづくりなどを行いました。講師に町内に住む方をお迎えし、幅広い年代の方々とつながりを持てました。宿題タイムも実施。 ➤ 夏祭り参加(7/29(土)) ことう文庫として初出店。ポップコーン販売。なかなか地域とかかわりを持つ機会の少ない高校生・大学生に声をかけ、4名の参加があった。 ➤ 8月-12月 ○8月19日(土)より通常開館再開。土曜日は10:00-12:00。 お話の時間、本の貸し出し、工作、食育、手仕事などの体験メニューも継続。 ○10月より公民館2階スペースにて土曜開館時に中学3年生のための学び場開放開始。 ○10/28(土)ブックトーク「子どもと本をつなぐ」開催。大人が読んであげることによって耳で聞いて子どもが理解できる児童文学作品34冊を紹介。 ○11/18(土)多世代交流事業「クリスマスリースの会」を開催。 参加者は、町内外から11名、講師は町内に住む川野句美子先生。 ○12/16(土)文庫大掃除。 ○12/26(月)冬休み特別会館 ➤ 1月-3月 ○1月20日より通常開館再開 ○1/27(土)多世代交流事業「いきなり団子づくり」を開催 更生保護女性会の皆様に指導していただき、いきなり団子づくりしました。 参加者:子ども9人、更生保護女性会7人、大人4人 ○3/20(火)ブックトーク開催。湖東中学校お話ボランティア9名が参加。今年度一年間に

	読んだ本を紹介しあった。 ➤ その他の活動 ・本を手にとってもらいやすい面出しレイアウトの実施 ・毎月20日に回覧版で町内の方々に文庫の開館時間や新しい本の情報をお知らせ。 ・小学校を經由した情報発信。 ・子ども会を經由したメールによる情報発信。 ・ホームページでの広報活動 ・添付書類：利用人数（のべ）・貸し出し冊数リスト・活動の様子の写真
実施場所	熊本市東区湖東2丁目1-15 湖東公民館2F
事業の効果 ・公益性	本屋では容易に手に取れない、公営の図書館では容易に探せない、子どもにとって生きる力となる本当に良い本の力を、選本し、発信してまいりました。今年一年間の事業で利用者、貸出冊数が増え、リピーターの親子がいてくださいます。少しずつ、ことう文庫が地域の子どもの居場所となっていることを感じます。 今後、熊本地震で見直された地域のつながりが生まれて、住民一人ひとりがこの地域で安心感を持って暮らせることが目標です。
次年度以降の 事業展望	去年度と今年度で行った、毎週の開館時にお話の時間と様々な工作や体験の時間を設けることによって、定着して毎週10人以上の子どもたちが来館するようになりました。リピートしてくてくれる子どもたちや親子の存在が大変ありがたいです。「ことう文庫」の地域の子どもや大人が集う場としての認知は深まったと思います。また、当初掲げた、地域で子どもを育てる意識が少しずつ伝わっているのを感じます。 ただ、子育てや地域活動のかかわる大人の余裕のなさは大変深刻で、私たち運営スタッフと子ども会のボランティアだけで継続的に開館していくことの難しさを感じています。 次年度以降も引き続き、3つの観点で事業を継続していきたいと思っています。 I. 高校生・大学生との連携を進めて運営力強化を図る。 II. 地域の様々な年齢層をつなぐ役割を担い、地域ニーズを把握して課題解決のための情報提供をする文庫を目指す。 III. 継続的に開館していくために、この活動に賛同してくださる方を増やす仕組みをつくる。たとえば、文庫の運営に興味を持った人が、少しの時間でもお手伝いに入れる、または、アイデアが反映されるシステム作っていききたいと思っています。
事業への想い (当事業によってどのような熊本市にしていきたいか)	なかなか地域活動に参加できない大人たちの状況、6人に1人といわれる子供の貧困、独居老人問題など、地域の問題を一度に全部解決はできませんが、地域に少しずつ関る人が増え、ことう文庫がその器になればと思います。熊本市の中にたくさんの地域コミュニティ作りのグループができて、横のつながりができていくことで、安心して暮らしていける社会が実現できればと思います。